

# 春の水管理で河川の水質改善を図りましょう

～ ちょっとした工夫で水田からの濁り水等の流出を防止 ～

島根県では、環境にやさしい米づくりを推進しています。

安全・安心なお米を作ることはもちろんですが、近くの河川や湖の環境を守ることも求められています。

これまで何げなく行ってきた水管理も、ちょっとした工夫をすることで水田からの濁り水や肥料等の流出を少なくすることができます。

みなさんも、以下のポイントを実践し、周囲の環境保全に貢献してみませんか。

「うち一軒がやっても大した違いはないだろう」と思われている方、そんなことはありません。一滴の雨粒が洪水を招くように、一枚の田からの流出量は微々たるものでも、下流ではかなりの量になります。

小さなことからひとつずつ、地域で取り組んでみてください。

## 畦の補修等による漏水防止

漏水の大半は畦際なので、畦塗りや畦シートの設置により漏水を防止します。



畦塗り機による畦塗り作業



畦シート埋設作業

(写真：滋賀県「農業排水対策営農技術集」より)

## 浅水代かきによる落水量の低減

代かき前の入水量は、田面に「土が8割」「水が2割」見える状態を目安に行います。



浅水代かきの目安と代かき作業

(写真：滋賀県「農業排水対策営農技術集」より)

## 田植え前の落水量の低減

田植え前に水を溜めすぎて、強制的に落水してから田植えをするケースはありませんか？

田植え前のほ場の水は濁り、肥料成分を多く含んでいます。

ほ場の減水量を勘案しながら、自然減水で田植えに臨めるよう水の入れすぎに注意しましょう。



↓ 止水板

(写真：鳥取県中部総合事務所農林局資料より)

## 施肥田植機の利用（局所施肥）

施肥田植機により土壤中に肥料を施用することにより、肥料の流亡を軽減できます。また、肥料効率が向上することから施肥量を削減することが可能となります。

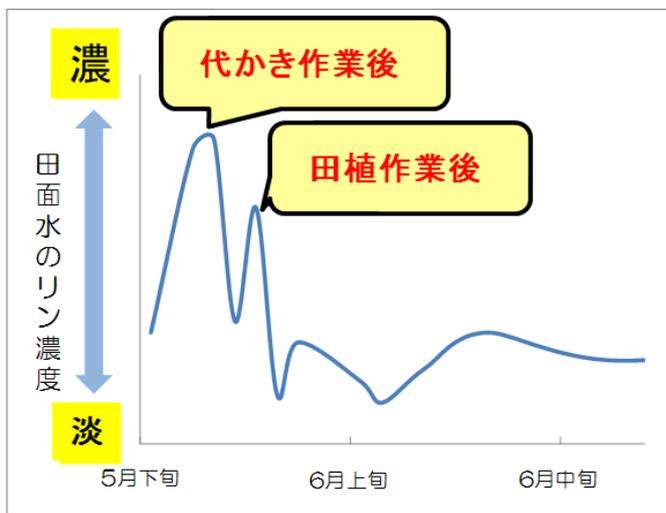


側条施肥田植機

## 緩効性肥料の施用

緩効性肥料は肥料効率がいため、肥料成分の流出を軽減できます。施肥田植機の利用と組み合わせることにより、窒素等の肥料成分の流出防止が図られます。

## ○作業後の田面水のリン酸濃度は高くなっています



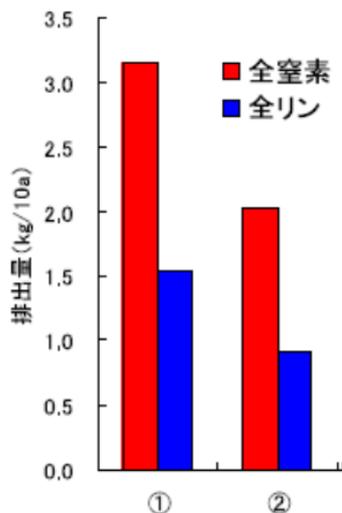
代かき・田植後の田面水には、窒素、リン酸などの肥料成分が多く含まれています。

ほ場から汚濁水が多く流出する時期は、代かき作業後と田植作業後の時期です。

このようにこの時の水管理が重要になります。

(鳥取県中部総合事務所農林局資料より)

## ○浅水代かきと落水防止で肥料成分の流出は少なくなります



- ① 慣行管理
- ② 浅水代かき+強制落水防止

浅水代かきにより代かき作業を行い、田植前に強制的に落水をしないことで、濁水や田面水中の窒素・リン酸などの肥料成分のほ場外への流出が抑えられます。

石川県農業試験場データより

島根県農林水産部 農産園芸課  
有機農業グループ  
TEL(0852)22-6477 FAX(0852)22-6036  
E-mail : nosan-engei@pref.shimane.lg.jp

島根県環境生活部 環境政策課  
宍道湖・中海対策推進室  
TEL(0852)22-6445 FAX(0852)25-3830  
E-mail : kankyo@pref.shimane.lg.jp